

附属機関等の名称 会議概要

1	審議会名	第9回交流学习センター施設検討委員会
2	日 時	平成 18 年 6 月 29 日 午後 7 時～午後 9 時 30 分
3	会 場	堀金総合支所別館
4	出席者	益子委員長、草深副委員長、丸山委員、中島委員、細野委員、松尾委員、中田委員、山田委員、藤原委員、荻山委員、中嶋委員、細萱委員、小口委員、三枝委員、松田委員、細川委員（まちづくり推進課長）、松枝委員（社会教育課長）
5	市側出席者	望月教育長、小林教育次長、曽根原文化振興係長、財津文化振興係主査、丸山豊科教育課生涯学習係長、下里穂高教育課生涯学習係主査、那須野三郷教育課生涯学習係長、小穴児童保育課児童係長、小松三郷総合支所健康福祉課長
6	会議概要作成年月日	平成 18 年 7 月 13 日

1 . 会議の概要
交流学习センターに複合的に整備すべき機能について
その他
2 . 協議
・第9回の検討委員会開会させて頂きたい。前回8回目には今まで皆さんでお決め頂きましたものをまとめた資料をお配りいただいた。次のステップとして複合施設というのは、いかなるものが必要なのかということで、これからご議論をして頂きたい。ただ、こういう学習施設等になりますと、様々な皆さん方のご意見、沢山の意見を頂きたい。時間をどのくらいかけてもかけ過ぎるということはないが、時代の要請に沿うことができなくなってしまう。できれば効率よくもちろん議論を沢山して頂きながら、意見を理論的に集約して頂きたい。 できますれば皆さん方のご提案頂きながら、もっと議論を深めて、皆さんの意見をお聞きしまして具体的にまとめたいと思う。 ・まず中央図書館についてですが、駅から1.5キロの距離があった。循環バス等を運行して頂きたい。バスについては、できれば床の低いバスがいい。あと道の整備について、駅からの道は狭い所が多く、且つ車の量も多いので歩道は必要ではないか。また、各施設の現在の道と豊科地域と三郷地域の新しい施設の予定地の道についても考えてみたが、やはりどこも整備が不十分ではないか。バリアフリーについて、そういう言葉も大事だが、実は大学に在学した時に調査した。その時に考えたことですが、ハートフル法で基準が決められているが、それは抽象的なものしか今は決まっていない。最後に問題点として、障害者用の駐車スペースについて、今問題になっているのは一般の人が停めていて、いざ停めたい時に使えないという状況がホームセンターとかで見られる、そういうところについて改善ができればと思う。もう一点、身障者トイレですけど、ユニバーサルデザインで一般のトイレの中に一緒に作られている障害者用のトイレがあるのはいい考えだが、介護者が異性の場合に、どうやって介助を行うのが問題だと私は思う。 ・現場調査をさせて頂き、提案に対する更に提案を考えたのでご説明する。穂高の旧ワシントンランドへの穂高駅からのアクセスにつきましては、私共歩かせて頂いた。今日お配りしました資料1、後ろから2枚目の所に地図が載っているが、旧ワシントンランドへのアクセスだが、穂高から実はこの道が地図上ではまっすぐ描かれていますが非常にクランクが多い道だとわかった。見通しが非常に悪く、そして結構な車の量がある。地域の方々がかかりお使いになる道路だということがわかり、この道路を整備するということもひとつだが、若干ここのアクセスの主たる道として考えるのは難しいかなと、あまりにも危険が大き過ぎる

かなと考えた。そこで資料 2 だが、穂高駅から国道 147 号に向かって歩き、穂高神社入り口から境内に入って、東からの入り口にある大鳥居のところに太鼓橋があるが、矢原堰沿いに管理道路がある。この管理道路は狭いところで 1m 位、広いところだと 3m 位の幅がある。そこを南に歩いていくと、三枚橋公園ワシントンランドのちょっと東まで来る道がまっすぐで、どちらかという歩行者専用のかたちでかなりの部分とれるのではないかと考えている。穂高の交流学習センターについては、まちづくり公共事業の関係で市街化整備のなかで、若干補助的な事業として道路整備ができれば、穂高の玄関口から続いたある程度のきちんとした歩行者の為のアクセスの整備ができるのではないかと考えている。それから、豊科、三郷等の提案についても、豊科でしたら都市建設の方で道路工事を行っております。もしよかったですらその担当部局の方から必要があれば提案できると思っています。三郷についてはいまのところ計画はないが、しっかり決まれば検討していきたいと考えている。それから低床バスについて、都市建設の担当になるので、また時間をとって要望するような場をとらせていただければいいのではないかと今考えている。施設の関係について、ハートビル法のもとにこれから設計のなかで当然配慮するつもり。一番私もどきっとしましたのは、最後いわゆるひまわりは身障者便所が一般のなかにある。介護者が異性の場合はどうするか、これはちょっと私もそうかと考えている。この辺はどこまで配慮できるのか少し検討させて頂くつもりである。

・ハートビル法で人にやさしくということになっているが、これはあくまで最低基準。障害を持っていられる方は、いろんな程度があり、全ての方に適応できる訳ではないので、是非、これから作る安曇野市の施設については最低基準プラス 2 割程度の余裕をみてつくって頂ければ利用しやすいと思う。それからもうひとつ設計する側からいっても、ほんとうに具合の悪い方に実験をしてもらうことが必要。だから健常者の頭の中で、やはり考えてもなかなか痒い所に手が届かない形になってしまうので、実際に不自由な方に使ってもらって実験して設計してもらいたいと思う。それからアプローチの話だが、穂高から歩いてくると 15 分位、それから旧道を上がってくるとさらに 7 分位かかる。それから柏矢町からも歩いたがあと 2 分位。穂高駅に限らず南から来る人は、柏矢町から降りてくるといことも考え、歩道の整備について二方向から考えてほしい。

・私は、森林公園は安曇野市の中に何処かに特別に作るのではなくて、市全体をひとつの文化公園と捉えてそのなかで道の整備も進めていって欲しいと思う。安曇野アートラインとかスケッチロードとか素晴らしい道があるにもかかわらずそのまわりの整備とか、そういう所がまだちゃんとなされていないような気がする。そういう所もうちちょっとこれからは費用かけて頂いて、新たにできる交流学習センターへの道もそういった観点で捉えて頂いて、その為には住民の皆さんのご協力がないともちろんできないことないが、そういう住民の意識も少しずつ高めながらみんなで安曇野市をいいひとつの文化公園にする意識を持って頂けたらいいかなと思う。

・今、事務局の方からお話された歩行者専用道路のところは、これは鎌倉時代から戦国時代まで、いわゆる安曇野の中世の幹線道路。いわゆる塩の道。中央図書館まで道も、もう少しその安曇野を歩きながら体験しながら中央図書館に来て、その流れの中で調べることができる。こういう部分というのは、他の部分の所で今の話が出たが、いろいろ言えるのではないかと。安曇野全体が博物館というなかで、道路は博物館の廊下である。要するにそこに住んでいる人達、住民は学芸員である。こういうあのエコミュージアムですね、安曇野が一番とりやすいところじゃないかなと思うので、やっぱりそういう観点をおさえられたらどうかと思う。

・標識は必要だと思うが、その標識代わりに野外彫刻を置いていけば。そういったこともよろしいのかと。また道祖神がよろしいかなと思うが、地域的なもの、自然に少しでも近いもので案内をすることができれば思う。京都の銀閣寺のところに哲学の道、あの雰囲気かもし醸し出せば最高のロケーションになる。

・ご承知だと思うが、塩の道というのは北安では研究、顕彰がたいへん進んでいるが、南については同じ塩の道でも研究が遅れている。そういう点で、ちょうどこういう話が出てくるなかで、施設だけの問題じゃなくて施設に繋がる道をさらにどういう整備するか、文化的にも観光的にも考えていきたい。ただひとつ塩の道で、栗尾の万願寺へ行く道で歴史の道があるが、山下さんと案内板をつけたり地図で場所をおさえたりしたが、まだまだやりようがあると思っていたので、塩の道についてはタイミングのいい話ができたとと思う。

・複合になる施設について、美術館、顕彰館、児童館、前は一度にご提案頂きお示し頂いた訳だが、できればひとつずつ取り上げてお話をさせて頂きたいと思うが、いかがか。

よろしければ挙手を。

【委員全員、挙手】

ありがとうございます。

では、美術館につきまして話を進めさせて頂きたい。改めましてご提案ありましたら全部取り上げていきたいと思う。

・私の考えでは、現在安曇野市で持っている美術品、これはどのくらいあるかわからないが、お示し頂ければ、どの位の規模が適正なのかそういったことが見えてくると思う。それと同時にやはりお金をかけないで人を集める、そういうことは美術館経営には大事な事。周辺にある美術館で赤字をださないで運営しているちひろ美術館ぐらい。人件費を少なくともやってかななくちゃいけない。そういうことを強く思う。何か特色を出さないと人が集まってこない。これがやっぱり美術館だと思う。

豊科近代美術館は、高田博厚さん、あの方は彫刻家としては高名な方。ただ豊科とか安曇野とどういう関係があるのかはわからない。基本的には安曇野出身、安曇野が好きな方等の作品を中心にすべきと考える。もうひとつは、高名な芸術家の方の作品も収めていく必要も当然あるのかと。もうひとつは、これからこの地域で芸術をどう振興していくのか、それはやはり中心となる美術館と強く思った。提案を聞いたりしながら、ギャラリーを広くとって自由に芸術家の人達が作品を展示することができるという、また将来的には市民の皆さん等に芸術作品を収用していきたい。その辺を見越した計画が必要だろうと思う。特徴付けられないと足をひっぱってしまう、もうひとつは市内にある美術館とどう関連付けていくのか。独立した美術館だけでは人が集まってこない。顕彰館との関係だが、例えば碌山、小川大系、小室孝雄、小林邦、藤森桂谷、こういった人達の作品を美術館に入れれば、顕彰館の役割を担う。なぜ顕彰館に入れるのか私はよくわからない。それから収蔵すべき作品、これは多少選別しないといけないだろうと。市内運営委員会等をつくって検討すべだと思う。

・現在美術館のギャラリーが狭い、そうした実態のなかでの検討が豊科であり、私としては安曇野市のなかで同じような施設がいくつも出来てもなんの意味も無い訳で、独自性をもった地域図書館ができればいいなと、そのなかで近代美術館があるので美術的な分野の特色を持った地域図書館があればとの思い。いずれにしても、いろいろな博物館的な資料については考えていかなければいけない。ギャラリーを整備していろいろな展示ができるような、そしてそれにふさわしい地域図書館ができるようにしてほしい。

・美術館というのは、感性を磨いたり感性を刺激したりして至福の時を過ごす空間だと思う。音楽などとともに美術も充実していくべきだと思うが、市でつくるから赤字経営でもいいという訳ではない。そこで提案だが、六本木に国立美術館が新しくできた。西洋美術館以来 27 年ぶり、ここは収蔵品がゼロ。全てスペースだけを与えて作品は作者が自分で展示している。そうすることによって作家にも活用されるし、市民にも利用される、絶えず何かやっているという雰囲気を与えられているということが貴重。展示替えをして、いまこれをやっていますと発信していかなければいけない。市民皆さんに使ってもらえるような施設にしていくことが必要。県展をやるにしても現在の美術館では、大きな作品を鑑賞する場所が無い。松本市立美術館では 100 号 200 号の絵画でも鑑賞できる施設がある。作品が無くても多く利用され活用される。十分検討して頂きたいと思う。

・事務局の提案の基本、豊科というのをとって市の全体的な美術館にするという方向、これは本当に素晴らしい。既に近代美術館については京都の造形美術大学と提携して毎年スクーリングをやっている。そういう意味では安曇野のなかの美術館という機能はしていると思う。ただ、部屋が小さく分かれちゃっているということ、先程の細野さんから話出ましたが、やはり美術館の機能を十分持たせていく為にはということで、ギャラリーは最初の提案ではなくて話し合いのなかで出てきたものだと思う。そこらへんはどういう風になっているのかなあと思うので、事務局の考えをお話いただければと思う。結局多目的ホールという案があったが、あそこの多目的ホールがギャラリーになるということか。その辺がわからない。

・計画では、2 階の部分は多目的な施設としてギャラリーもあるということになっている。先程意見のあった

市全体を公園としてとらえるという視点で道を整備されればいいなと思う。

・図書館は誰でも日常に行けるところ、美術館はお金を払って行くところで、図書館と美術館を一緒にするのはどうかと思う。内容的に違うのではないかなと。

・美術館の提案というのではなくてギャラリー程度のもなのかな。今のお話の流れだと美術館はかなりの規模で、ギャラリーはどうなってくるのかなと。今の施設と二重のものになってくるのでは、それは変ではないかと思う。

・安曇野市で収蔵する美術品について、どういうものがあるのかというご質問だが、実は皆さんの共通認識としていただきたいと思います、急遽、各地域の美術館等から所蔵内容等を一覧にした。それをご説明する。

・資料を説明。豊科、穂高、堀金地域、ここに掲載してある美術品収蔵庫、倉庫あるいは一部の展示されている、存在するといった状況のものなど。安曇野市は合併して、美術品工芸品等のデータベースの整理がまだちょっと追いついていないのが現状。総数 3,658 点ということになるが、この他にも若干はあるかと思う。学校とか或いは総合庁舎等に飾られているものについては入っていない。急遽まとめたものということでご理解をいただければと思う。

・安曇野市が収蔵している美術品についてご理解いただきたい。まずこういったものがあるということをご様に認識していただきたいと思うが、私はたいへん豊かであると思う。そんななかで例えば郷土博物館の資料だが、スペースが無くほとんど公開していない。これだけのものがあれば年 2 回位は展示できると思う。近代美術館の馴れ初めが生活工芸を展示するのがスタートだったこともあり、小さな部屋になっている。但し彫刻作品を飾るにもよいかと思うが、やはり 100 号以上の絵が廊下の両側に飾られたりもしているが、まだ機能的に不十分。そこは今回豊科地域の図書館の 2 階の部分、多目的交流施設、もしくはホール（大会議室）についても、そういうギャラリー機能を持たせたい。基本的な考え方は、単なるギャラリーとしてつくるのではなくて、近代美術館が不足している部分をきちんと捕完し、建設されたあかつきには近代美術館と一体となって安曇野市の基幹美術館としてふさわしい内容になるのではなうよう、多少設計の変更が必要になるとは思いますが、きちんと整備すべき部分についてはしっかり行すべきだと思う。

それから、細かな点についてだが、財源、財政的なものについては、美術館は確かに儲からない。去年は片岡鶴太郎展、これは 300 万黒字になったが、他のものはほとんど赤字。但しかなり関係者が努力して、企画展等で苦勞して頂いて人は入っている。少し多すぎる位、美術館の静寂な雰囲気がない位、特にこういったかたちで努力されているということをご理解頂きたい。整備がさらに進めば、さらに人が来てくれる美術館になると思う。

・安曇野市美術館をつくるのは、何を目的にしているのか、私にはちょっとわからない。安曇野市に縁のある方々を展示するためだけだったら無くていい。感性を育てると一口にいうが、感性を育てるというのは、ある意味自分自身との会話。自分自身を見つめなおす対話であり、作業であり、ただ見たからということでは決して無い。だから高い大きな絵を飾ったからといって、見た人が感性が磨かれるかという私はそうは思いません。絵をただ飾ることだけに反応してもらいたくない。この会のはじめに私は、「人を育てる場所であって欲しい」と言った。新しい芸術家をできれば生み出す場所になって欲しいと私は思う。美ヶ原高原美術館で毎年こどもたちの彫刻展というのをやっているが、そこで必ず 1 位を獲る子は、ちょっと障害を持っているが、その感性はとても素晴らしい。例えば、観光目当て、もちろんそうかもしれないけれど、市民のための美術館にしたいなら、やっぱりここでワークショップをやることによって、小さい子から大人まで沢山のワークショップをやることによって、自分の作品をなにかで発表できる場というのを沢山もってもらいたいと思う。そうするとそれが自分の力、自信になって、もっともっと新しい何かを生み出す力になると思う。できればそういうものができるような美術館になってもらいたい。単にどこの美術館の絵を持ってきて飾る、というのではなくて、何かを生み出す場所になってほしい。

・安曇野のなかにしっかりとした美術館が無い、それでいいのか。やっぱり必要ではないか。身近な人がこれだけ素晴らしいのだから。山本安曇は、全国的にも評価されているし、地域的にも安曇野を代表する芸術家だと思う。これだけのものがありながら展示する場所がなかったというのが実態ではないか。

・私がお願いした部分がさっと出て、この部分は準備がよかったと思うが、私は美術品が好きで、たえず勉

強したり自分でも作品を買ったりしているが、はっきり言って、安曇野出身の作家で全国に名が知られているのは萩原碌山と高橋節郎、この 2 人しかいない。ご承知の通り、明治以降日本国内における最高の作家。高橋節郎さんは現在でも漆芸で世界の第一人者。このお 2 人は全国的に名が知れていて世界に誇れる人であろうと、他の方は残念ながら年鑑に載っている方は随分いるが、ここの出身の方で全国的に知名度がある人はいない。そうすれば、何でそういう人達の作品も飾らなくちゃいけないのか、これは、中には小川大系のように、話によればこの方は芸術院クラスであった、そういうことをおっしゃったけれど、なかにはこういう不遇な作家もいる。作品自体は悪くないと思う。そういった意味で、先程美術館とか顕彰館という話も出たが、私は美術館というのは文化のレベルを表すものじゃないかと。世界各地の美術館を見て歩いたが、立派な美術館が整っている所は独自の文化がある。文化のレベルを示すひとつの象徴であろうと。先程市からの説明で私が思ったのは、現在安曇野が好きでここにいる、訪れている作家をどうやって育て売り出していくか、これがひとつ欠けていると思う。それから芸術を志す若い子供さん、若い人達をこれからどうやって増やしていくか、育成していくかということ。それから市民のなかに、皆さん美術品がわりあい好きです確かに。だいぶお持ちになっている方も私も知っている。ただなかなか一般には普及しない部分もある、そういう人達に美術館を訪れることによって気軽に芸術に接して頂ける、そうすることによって地域全体の文化レベルを上げる、これは心の余裕だと思う。平和だからこういうことができる。戦争状態では余力がない。平和の象徴であろうと。従って是非、立派でなくてもいいからふさわしい美術館を作って、みんなでそれを育て利用していく、安曇野地域が文化的に注目されて、芸術の香りがする地域になってくる、その拠点になってほしいと思う。私自身美術館は是非欲しいと感じている。

・興味の無い人にこれは素晴らしいと言ったとしても絵に描いた餅になってしまうので、どうやって興味を持ってもらうか、課題になってくるのではないかと思います。

・設計を変更すべきなのかもしれない。実は図書館の部分、豊科の平面図は基本設計なのであまり変えたくないが、1 階の BM の車庫、書庫やバックヤードなど広いので、子育て支援機能を加える必要があると思う。2 階上部をもうすこし立体的な施設な設計を考えさせていただければ、コンテンポラリーの作品などに対応できるようなおもしろい美術館になるのではと思う。敷地の図面を見て頂きたいが、前に駐車場があったりして、敷地的には一杯。2 階の部分を変えさせていただく、皆様にお話のような機能を持たせることができる程度可能かと思う。

・ホールもこのままか？

・そういう訳ではないが、美術館として使う場合にも、ホールはある程度必要な場合が出てくると思う。美術館でコンサートというのもあると思う。ある程度の人が集まってコンサートできるようなものが美術館として図書館としてあってもいいだろうと思う。多目的に使うということ、そういったものだけでなく、ここで企画展ができる、立体的な作品を上からみるといった場合も、そういったホールがあってもいいのではないかと思います。大きなものはいらないですがある程度のホールがあってもいいかと思う。

・なんか欲張り過ぎかなという気が。

・それは皆様のご判断で。この際ホールも必要なのではということです。

・近代美術館を使っていまして、率直に言いまして非常に使いづらい。ホールは 150 人くらいギリギリだが、音量が非常に悪い。光が入らない。

・大体考える場所というのは豊科近代美術館、安曇野ビレッジ、参集殿ですね、それでも使いづらい。そういうことを考えると、安曇野のなかで 100 人位の規模のものをやるというと、そんなにいいところはどこも無いというのが実際のところじゃないか。

・アンケートを豊科時代にやった時にも、ホールが是非欲しいというのが出て、実情としてそういう施設が今まで無いと、そういうことで計画された。結局、単独で図書館 福祉施設などと複合施設にすると、両方に効果が生まれる。決してぜいたく品ではないと私は思う。

・元々芝生のところに建てるということは、もともと反対、できれば美術館を完成させるための敷地であるなら美術館だけを増築というかたちで、規模もそれほど大きくなく建ててもらいたいと思っている。

この間ひまわりを見せて頂いて、何処にでも小ホールができてしまうのはどうだろうか。それと、ひまわ

りのホールを見せて頂いて、率直な感想はびっくり玉手箱みたいな感じでこれも出てきたあれも出てきたというのではなく、できればきちんと目的を持った専用のホールをきちっと他に建てて頂きたいと思う。

・学習機能をもった美術館というのであれば、ホールも多目的に使わざるを得ないということになるのかと思う。いかがか。

・豊科の美術館の規模のことをちょっと検討しなければいけないと思う。ホールが現実的にあれば使いやすさに繋がってくるだろうと思うので、立派なホールでなくてもいいから欲しいなと。あと収納や展示のことを考えると2階では収まりきれない気がする。ですから安全上の問題もありますけれども収納を3階に上げてしまって、展示スペースを確保する。それから収蔵庫を拡張して、そこにも作品を収蔵できるようにしなければいけない。駐車場は280台入る所にもってきて、ホールの席が254席ですから、例えばホールに行く人だけで一杯になってしまう。美術館の裏側も駐車場として同時に考えていかなければ、例えば今はもうほとんど車で利用する人の方が多いのですから、やはりそういうことはあわせて周りのことも考えていかなければならないと思う。

・あの、ちょっと話を聞いて、何か違和感があります。全市的な施設ですよ。どうも何か釈然としない。私は最初の提案の時に申し上げた通り、市民全員が利用できる施設をどこか一箇所作ってですね、そこにある程度大中小、ホールとか会議室とか設けるのか。それで済むのではないかと。いろんな話を聞きながら、芝生をなんとか残すべきという声が非常に強い。だから美術館は大規模な施設ではなくて適正な規模で残ったところは芝生で残してですね、図書館は別な所に作ったらどうかと。美術館と図書館をつけるというのは、どうもピタッこない。ホールも中途半端なものをつくらず、市民ホールに大中小のホールをつくれればいいのではなか。全市的な美術館と地域性の強い図書館をつくるというのはしっくりこない。

・地域図書館が特色を持ったものであれば、役割をはたせるのではないかなと思う。それから芝生の問題だが、いろいろと説明をしたりして、無理して合意ということは全く無いわけで、ルールを踏んだなかでのかたちとしてプロポーザル、設計でもこの場所に決まってきたので、この部分では問題ないと思っている。図書館と美術館を分けた場合、むしろ効率や経済性を考えると問題があると思う。豊科でしぼりにしぼって作った無駄の無い案ですが、全市的な視点ということであったので理解している。

・一応私共、豊科町の計画を継承しているが、豊科町の計画をそのまま提案しているのではない。あくまでも市役所、安曇野市教育委員会の立場として、皆様方にご提案申し上げている。そのなかで図書館と美術館が一緒にするのはどうかという意見は、たしかにそんなお話が以前にもあった。これについては例えば松本市の美術館と市民ギャラリーがこれだと思う。施設を運営する場合に、確かにちょっと人力的な配置は必要になるのかなと。このことは承知している。つまり人件費的には多少かかるかなと思っている。図書館と美術館が併設した場合でも、市民の皆さんにとって違和感はないのではないと思っている。図書館と美術館を分けて管理をすることで対応できると思っている。図書館に来る方は無料で利用していただき、美術館にはお金を払って入っていただく、また市民の方の発表のときは、図書館同様に無料でみていただく、そういった整理はきちんと対応できると思う。豊科は中央図書館ではなく地域図書館であるが、特色ある地域図書館とすることで、美術関係の学習の拠点としていくという方向が考えられる。それから人という問題だが、私共社会教育課に4月から文化振興係という係があり、学芸員もいる。全体的な計画、この施設の、美術館、図書館についての位置づけ、特色づけをし、美術館との関係を保つことも可能だと思う。安曇野市教育委員会の立場として美術館と図書館がここに一緒に建設されることに問題はないと思う。別に作るというのはやはりお金がかかる。市の台所事情も考えた上での提案である。

・開き施設を見せてもらって、図書館として利用できるような施設はないのか。

・開き施設は見て頂いた通りで、はっきり言って施設が無い。豊科は全く無い。

・今事務局の方で豊科には無いとおっしゃったが、実はある。豊科の総合支所を見まして、老朽化しておりました。立て替えなければいけない。あそこに図書館を持って行って、そして豊科の総合支所と複合施設にするというのが一番使いやすいかなあと。それがやはり土地利用かな。それから、ごちゃごちゃごちゃごちゃ建物にもものを入れてしまっは、本当に安曇野らしい、いい雰囲気は美術館になるだろうか。美術館の面積はやはり相当な空間的なものが必要になってくると思うんですよ。土地の無いところで東京都内のような

市街地であればそれは問題。しかし、広い面積を持っている安曇野ではふさわしくない感じがする。ですから美術館に限って集約して美術館的な空間を醸し出していくような空間にしていけることが、安曇野らしい土地の有効利用をすれば、土地はただで使えますから費用もかからないと思うので、まず検討の議題にあげて頂ければ。

・支所ですか、確かにこれはいいが、市庁舎の位置が、これからの意見でどう動くか。できるだけやはりバラバラではなくて、できるならばひとつの箇所へ集約できるようなそういう構想が、私はいいのではないかと。

・総合支所もしくは公民館の問題だと思う。今基本的に無いと申し上げましたが今施設をそのまま使おうとすればいい。立て直せば何処にでもある。ただし総合支所については、今、地域審議会の方で議論が始まっているが、はたしてどのくらいの規模のものがいいのか、総合支所方式をどうするのか、そういう議論がある。そのなかでは、必ず将来建て替えるか、図書館を建設するか議論は成り立たないような気がする。ただひとつ言えることは、新市庁舎はできるという見込み。ですから総合支所の関係が当然出てくる。明科は違うが、豊科は近くに公共施設があり、豊科からこうやった要望が上がってくる施設について、まち交の関係もありそれほど問題無いというのが先程申し上げた通り。新設して建設した方が、市民の皆さんの負担に伝えられるとこういうこと。

・駐車場の件だが、5月に無線で苗の頒布会というが流れました。そうしたらほんとうにもうみんな無線で聞いただけでしょうけど、駐車場が無いでしょう、入れなかったです。置く所がない。

先程出ましたけど、バスで来る方はいいけれど、車で来る人は駐車場の問題で本当に困りはしないかと心配。

・一点申し上げますと、図書館は駐車場があまり必要だと考えていない。私共経験的に。ひまわりは30台位しか無いですね、随分地元の方に心配されたが、図書館は一気に集まらないから、図書館という施設の為にかなりの数を確保するという事は必要ない考える。ただホールの場合は集中する。特に夜間など、その分は少し配慮していこうと思っている。十分なスペースがあるとはいえない。実は裏側に使わないテニスコートがあり、必要な場合はここまで駐車場として整備する必要があると考えている。

・最初から出ている通り、芝生で結構反対意見が出て、結構余裕をもって請願書が提出したと思う。

・承知している。ただ、私共としては、当初の計画を継承している。豊科町の段階で反対のご意見も出されている。そのなかで豊科町の検討委員会として、そういったご意見も勘案した上で芝生の場所に図書館が決まったということで私共引き継いでいる。そして且つ芝生については、ちょっと狭いが図面にある花壇とある、私も見て参ったが、これも含めて比較すると、武蔵野の小径と併せて非常に好環境の芝生地が再現できるかなと。こういう考えのなかでご理解頂きたい。

・この設計図を見ますと、図書館の部分が非常に大きい。これだけの大きな図書館の部分をとってしまうと、おそらく美術館の部分が非常に少なくなってしまう。実質的に思うとおりの建設ができない状況になってしまうのではないかとこんな感じがしている。私はですね、豊科地域の他に交流学習施設はできないですかねえ。できる予定はないですか。もし出来る予定があればそれにくっつけたらどうですかねえ。予定が無いのであれば美術館にくっつけてもしょうがないかもしれませんが。将来的には特に具体的な計画が無くても、今日明日の問題ではないのですから、しばらくは我慢して、図書館はとりあえず現状のもの、或いは他に使える部分があればそこを使って、暫くしのいでいただいて、次に何か施設が出来る、その時に今の所につける形にして頂きたいと思う。芝生は消えてしまいますよね。美術館もそれなりのものを建てる、さらに図書館もそれにくっつけるのは、私は無理があるのではないかと思います。

・図書館を作ることは決まったのでないか。複合のなかで美術館の提案がきている訳だから、先程の流れだと、また元に戻っていることになる。今まで話の筋道をわれわれが決めておきながらこわすことにならないか。中央図書館を穂高に建てるということは決まった。複合施設をどうするかというなかで美術館という提案がなされているわけではないから、図書館に複合施設をつけるというのはどうかということで先程の流れもそうかいいではないか。途中から変わっているのではないか。

・整理させていただくと、複合施設については結構。場所については、まだ明確なところは決まっていない。どういうものがいいのか、どんなものがほしいか、どういうものにしてほしいか、それを決めましょうということになっている。

・ということになると、図書館はいいと。それから複合施設として美術館はいいと。場所が問題だと、じゃあ、今そのことで、図書館を別に建てるという議論はおかしいのでは。

・今ここですぐ建てるということではなくて、利用できるものは利用して、その時期を見て建てるというお話であったと思う。

・時期を見て、というのはどんな時期になるのか。

・それはわからない。それを今から考える。

・芝生の話は移植して全く問題ないと、それともうひとつ言いますと、芝生の維持に年間 30 万かかる。まあ、それはいいが。

・複合施設には賛成、しかし今の場所と規模についてですね、これから議論するということで、申し訳ないが時間がだいぶ過ぎてしまった。次回にもちこしになるかと思うが、改めまして、お互いの意思の提案と、ご自分の理念とか、提案したいもの、考えて頂き、次回にそれを持ち寄ってまたお話し合い頂くということで。

・ここまでで決まったこと、確認していただきたい。

・今申し上げましたように、複合施設については賛成であり、ただ、場所、規模、美術館にするかどうかは承諾できない。と言えます。

次回は 14 日金曜日の午後 6 時から。

本日はありがとうございました。